
岐阜県立岐阜高等学校

校 長 石田 達也
学校住所 岐阜市大縄場3丁目1番地 電話 058-251-1234

- 1 会議名 岐阜高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月30日(火) 13:00~15:00
- 3 開催場所 岐阜高等学校 会議室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|-------------------|
| 会 長 | 西津 貴久 | 岐阜大学 教授 |
| 副会長 | 安田 洋一郎 | 本郷自治会副会長 |
| 委 員 | 伊在井みどり | 安江病院 院長 (欠席) |
| | 高木 敏彦 | 岐阜県教育文化財団 理事長 |
| | 中村こず枝 | 岐阜市健康部長兼保健所長 (欠席) |
| | 萩野 順子 | 本校PTA会員 |
- 学校側
- | | |
|-------|--------|
| 石田 達也 | 校長 |
| 寺倉 新一 | 事務部長 |
| 笠原 常豊 | 教頭 |
| 渡部 彰規 | 教頭 |
| 杉山 秀謙 | 教務部長 |
| 北川 英治 | 生徒指導部長 |
| 黒井 昌和 | 進路指導部長 |

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 今年度の取組状況(教務・進路指導・生徒指導)
- (2) 生徒との懇談会(3年次生と協議会委員との懇談)
- (3) 委員からの意見・提言

○3年次生と協議会委員との懇談において

(既に進学先が決定している3年次生4人に、進学先、岐阜高校での3年間の取組、将来の抱負等についてそれぞれ話してもらい、その後質疑応答を行った。)

意見1:これから4月までの2か月間でどのような生活をするつもりか。

⇒大学から出されている課題・研究、英語・理科の学習、留学ための英語学習、ボランティア活動、大学での部活動の練習、読書

意見2:国際的な活躍をしたいということだが、海外の人は日本の文化や歴史をよく勉強している。4月までに日本の文化・歴史の勉強をし、語学力を磨いておくとよい。

意見3:(進路決定の4人は)自分で考えることができ、友達にも恵まれ、コミュニケーションを取りながら自分の考えを高めていったことがこの結果につながっている。今頑張っている仲間にも声をかけ続けてほしい。

意見4:AIや技術の進展で、メガネを掛ければ相手の話す英語が日本語で聞こえるということが現実になってきている。そうすると英語を勉強しなくてもよいという時代が来るのではないか。

⇒災害時や貧困の中で支援をするときは、自分自身が英語を使えるようになるとよい。
また、純粋に語学を学ぶことに興味があるので、英語を学んでいきたい。
⇒人の心に寄り添った翻訳ができるのは人しかいないので、自分の力で言語を学んでいきたい。

○今年度の取組について（教務・進路指導・生徒指導）

意見5：学校不適應の生徒に対して合理的配慮をする場合、そのプロセスはどのようなものか。

⇒欠席日数が増えてきた生徒については、保護者との懇談を担任・年次主任と、あるいは生徒指導部と行い、生徒が来られるような雰囲気作りの方法を考える。教室にいられない生徒については、医療連携も行う。これらの配慮については教員間で共有している。

意見6：12月までに進路先が決定する生徒は何人くらいいるのか。

⇒10人程度。指定校推薦枠も多くあるが、応募する生徒はそれほどいない。

意見7：探究活動の評価はどのようにしているか。

⇒探究活動では最後にレポートを提出し、ポスター発表も行っている。それらについて自己評価と教員による評価を行う。評価は4段階。評価項目を記したチェックシートがあり、それに基づいて評価を行い、公平性を保っている。

意見8：探究活動の代表発表者はどのように決定しているか。

⇒グループ発表、クラス発表、学年発表の順に行い、優れたものを選んでいく。

意見9：学校では、外部の力（IT、塾）をどのようにとらえているか。学校の教育だけでなく、塾等の力も必要か。あるいは今の学校教育そのままでもよいのか。

⇒個人のタイプにもよるので、各個人・家庭の考え方に任せている。学校の自習室や図書館、廊下のテーブル・椅子を使って勉強する生徒がいる一方で、部活動の後、駅前の塾に行く生徒もいる。授業内容をどの水準に合わせるのかという問題もあり、学校内で全て完結はできないので、外部の力を活用することを妨げることはできない。学校でできることは精一杯やりたい。

意見10：「i-check」とはどのようなものか。

⇒心理テストであり、その生徒の特性・傾向がわかる。その結果をしっかりと分析した上で、個別対応をしていく。

意見11：岐高生を持つ親としては、大学受験での厳しい現実を目の当たりにしても、子どもが努力する姿をそのまま認めて、「これまで頑張ってきたから、これからも頑張ろう。」と声かけをしていきたい。

意見12：「進路目標に対して、教科学力が十分に備わっていない生徒」について、どのような対策をしているか。

⇒基礎学力講座や学習相談会を行っている。学習相談会は学習方法について相談するものであり、基礎学力講座は苦手科目がある生徒に対する授業である。どちらも希望制。

意見13：私立文系であっても、数学を使って受験する人が増えている。今後、文理融合型の学部は増えていくのか。

⇒文理融合型の学部は増えている。今までのような文理をきっちり分ける考え方は、時代にそぐわなくなってきた。

6 会議のまとめ

・各委員から、忌憚のない多くの意見・質問を得た。また、今回の本校3年次生と委員との懇談は、生徒たちの発言内容も含めて、委員の間でも非常に好評であった。